

連載／東九州龍谷高・ナムナムガールズの歩み②

今年3月で9年間にわたる活動を終える宗門校・東九州龍谷高校(大分県中津市)のご縁づくりグループ「ナムナムガールズ」。先輩から後輩へと歌い継いできたオリジナルソングの中には、ひととき思い出の深い大切な歌がある。

亡き先輩へ 歌い継ぐ「命」

12月3日に福岡県築上町・長壽寺で行われた彼女たちの最終公演。同寺の門信徒らが座る外陣の最前列に原順治さん(55)、直美さん(53)夫妻の姿があった。ステージの2曲目は「さよなら先輩」。同高に入学して間もない



目に涙を浮かべ「さよなら先輩」を歌うナムナムガールズの生徒

2014年5月に悪性リンパ腫で亡くなった原さん夫妻の娘・亜祐美さんに向けて作られ、生徒たちが歌い継いできた曲だ。

亜祐美さんは病状が重く、4月に入学したが1日も登校することはかなわず、

5月17日に亡くなった。葬儀に際しては真新しい高校の制服姿で棺に納められ、生徒たちは教室で机を並べることのできなかった同級生を悼んだ。

翌年、宗教科の紅椏聖教諭(同市・雲西寺住職)がナムナムガールズの結成を呼びかけた時に第1期生として参加したのが、亜祐美さんと同じクラスだった2年の藤野未来さんと1年生12人。「さよなら先輩」は藤野さんがグループでの活動を終了する際の卒業ソングとして紅椏教諭が制作し、歌詞の一節には「君の机はそのまま私の隣に並んで」とメッセージを込めた。紅椏教諭は完成したCDを持ち、原さん宅の仏前に報告。以来、毎年5月17日には代表の生徒とともに訪問して手を合わせてきた。



亡き娘に向けた歌に耳を傾ける原さん夫妻

この日、「さよなら先輩」を歌った現役メンバーは「私たちは原さんに会ったことはないが、歌と今日のご縁を通して、何か先輩に会えたような気がします」と参拝者に語りかけた。最後と聞いて初めてナムナムの公演に訪れた順治さんは「娘のことを忘れないようにと歌い続けてくれたことを本当にありがたく思う。命の大切さや生かされているということ、今の生徒さんや歌を聴いた人が感じてくれればうれしい」と涙を拭き、語った。